

600形自動式
卓上電話機

1962



1962年(昭和37年)

昭和37年3月、東京都下昭島局での商用試験を皮切りに登場した600形電話機は、通話性能と経済性の上で完成された電話機といわれている。その後、全国的な商用試験を経て、昭和38年から全面的な600形電話機の導入が図られ、昭和46年からは、ホワイト、グレー、グリーン3色によるカラー化も始められた。ここに通話機能においてほとんど申し分のない電話機の出現を見ることができた。

特徴

4号電話機の3倍以上も感度が高く、これによりケーブルの細芯化は、さらに0.32ミリ(3,600対)まで可能となった。また、初のプリント配線の導入により信頼性、量産性を増している。デザイン面では送受話器が自然に正しい位置に収まるようにし、また、ダイヤル面もボディに埋め込む等細かい配慮がなされている。

*同系機種

600形自動式壁掛電話機

プッシュホン

1969



1969年(昭和44年)

コンピュータの開発は、データ通信という新しい通信分野を生み出した。こうしたコンピュータと連結できる電話機として、通話以外の機能を持つ新しい電話機“プッシュホン”が誕生した。短縮ダイヤル等従来の電話機のイメージを変える機能を持っている。また、昭和47年9月からは、従来のグレーに、ホワイト、グリーン、レッドを加えて4色となった。

特徴

ダイヤリングは、数字ボタンを押すだけでよく、これによって特定の周波数の音声信号を発信し、これが交換機を作動させる。ダイヤル数字のほか、2つの機能ボタンがあり、これは短縮ダイヤル等のキー・ボタンの役を果たす。

*同系機種

プッシュ式ホームテレホン
プッシュ式ビジネスホン

留守番電話機
レポンスⅢ形

1985



1985年(昭和60年)

昭和60年4月から本電話機が自由化され、自分の好みの電話機を選べるようになり、さまざまな形や機能を持った電話機が登場した。

特徴

「レポンス」は、留守番電話機能を備えた電話機で、応答専用機、マイクロカセットテープ1本の応答録音機、標準カセットテープ2本を使用する応答録音機の3タイプがあった。

クローバーホン

1987



1987年(昭和62年)

昭和58年12月から単体電話機のメイン商品としてプッシュホンハウディシリーズを提供してきたが、デザイン重視・OPD電話機及びスイッチャブル電話機が主流である単体電話機市場に対応するため、プッシュホンハウディシリーズの後継機種として、ハウディ・セレクトとともにクローバーホンを5月から発売した。

特徴

シンプル&リーズナブルなデザインに加え、低価格であるため、単体電話機の中でも特に人気がある。タイプには、クローバーホンyou(ヨコ形)とクローバーホンme(タテ形)があり、色はクリアホワイトほか6色と豊富である。機能面では、(1)DP/PBスイッチャブル(2)再ダイヤル(3)着信音量切替(4)保留音送出(ノクターン/メニューット)と簡易な機能で経済化を図り、販売価格は12,800円と手ごろな価格である。

1969年	1972年	1976年	1977年	1983年	1985年
級局を5段階とする	広域時分制の導入				端末機器の開放
東京月額基本料 住宅用 900円 事務用 1,300円	市内通話の料金度数制を 改め時間制(3分)を採用	東京月額基本料 住宅用 1,350円 事務用 1,950円 度数料 10円	東京月額基本料 住宅用 1,800円 事務用 2,600円		東京の回線使用料 住宅用 1,550円 事務用 2,350円
		東京～大阪間 4秒10円		東京～大阪間 4.5秒10円	

民営化以降については、本文をご参照ください。